

令和4年度

神戸SDGs表彰 大賞・功労賞・奨励賞

3月24日（金） 神戸市役所

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



 神戸市

神戸SDGs大賞

神戸SDGs大賞はSDGsの達成に向けて革新的な活動を行い、功績が極めて顕著な方々に対してお贈りするものです。



弓削牧場



日本初となる超小型バイオガスプラントの実用化に取り組み、循環型農業を推進した。

活動開始時期 2015年～

活動内容等 六甲の山間に立地する弓削牧場は、都市における酪農の可能性を追求し、国内初となる牛の糞尿からバイオガスを生産する小型のバイオガスユニット装置の開発・実用化を神戸大学と共同研究で行い、2015年に1号機、2017年に2号機を設置。牛の糞尿から生産するバイオガスは、再生可能エネルギーであり、また、温室効果の高いメタンガスの燃焼は温暖化対策となる。加えて、エネルギー自給は災害対策にもつながる。現在は導入コストを従来の5分の1程度に抑える超小型タンクの開発に取り組み、小規模酪農家でも導入しやすく有機JAS資材認証取得のバイオマス液肥利活用も含め資源循環によるエネルギーの地産地消モデルの拡大を目指している。これらの革新的な活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に大いに貢献している。



提供：月刊神戸っ子2019年5月号

神戸SDGs功労賞

神戸SDGs功労賞はSDGsの達成に向けて長年にわたり活動し、功績が顕著な方々に対してお贈りするものです。



株式会社メリケンヘッドクォーターズ



長年にわたり、兵庫県産のニホンジカの革肉骨角、全てまるごと1頭有効活用に取り組んできた。

活動開始時期 2006年～

活動内容等 2006年に獣害対策として捕獲した野生シカを活用した事業を開始し、神戸初の鹿肉料理専門店や鹿革製品販売店などをオープン。野生シカ1頭まるごと有効活用をキーワードに、鹿革を活用した衣料品の製造・販売、鹿肉の飲食店舗での提供、鹿骨の製品販売など、全ての部位の流通を確立したパイオニアとして、サステイナブル・エシカルな取り組みを続けている。これらの長年にわたる活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に貢献している。



玉一アクアリウム



明石川で小学生を中心に生物の採集・観察・飼育展示、外来種駆除等を年間通じて継続、子どもたちの観察や体験をもとにした手作りの「明石川オリジナル図鑑」を創作し、自然環境保全や外来種防除の重要性を伝えてきた。

活動開始時期 2006年～

活動内容等 市立玉津第一小学校の児童・卒業生(中高生)、保護者が中心となり、明石川において年間を通じて週1～2回の頻度で生物(魚、昆虫、貝等)を採集・観察。在来種は観察後リリースし、外来種は調理して食べるなど、子どもたちの学びを深める活動を展開している。この様な子どもたちの観察や体験をもとに、毎年手作りの生物図鑑を作成している。また、卒業生がリーダーとして活動に参加し、小学生たちにアドバイスを発行しており、自然環境保全を実践する次世代のリーダーを育成する仕組みが構築されている。これらの長年にわたる活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に貢献している。



宮道 成彦



神戸の海中に暮らす生き物を長年にわたり撮影、その記録を「神戸の海は宝箱」として海の豊かさを紹介し環境保全活動へつなげてきた。

活動開始時期 1996年～

活動内容等 震災後、これまで全く記録のなかった神戸の海中に暮らす生き物の生態を27年間ほぼ毎月にもわたり撮影し記録。撮影フィールドは、須磨・メリケンパーク・神戸空港・舞子海岸のほか、都賀川など身近な水辺の中まで多岐にわたる。

四季折々の海中に暮らす生物の様子を各種メディア等を通じて発信し続けることで、身近な海の豊かな生態系に驚きと感動を伝え、須磨海岸をはじめとする神戸の海における市民の環境保全活動の輪が広がる契機となった。これらの長年にわたる活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に貢献している。

神戸SDGs奨励賞

神戸SDGs奨励賞はSDGsの達成に向けて先進的な活動を行い、今後の活躍が特に期待される新進気鋭の方々に対してお贈りするものです。



株式会社ケルン



消費期限の短い食品であるパンのフードロス削減と社会福祉への支援を同時に行う「ツナグパン」を創設した。

活動開始時期 2021年～

活動内容等 「ツナグパン」は、売れ残ったパン10～20個を1袋に詰めて販売し、購入者にはケルン独自のパンを購入できる「エシカルコイン」1枚（100円相当）を発行するとともに、購入者への発行額と同額のエシカルコインを福祉施設にも贈る。消費期限の短いパンの食品ロス対策と社会的支援を目指すツナグパンは、画期的な仕組みである。この取り組みにより、パンの廃棄量は11%から2%に減少、2021年12月から約1年間で約8,000袋を販売した。これらの先進的な活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に大いに期待される。



神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 源研究室



神戸の水域に環境DNAを用いた生物調査を主導した。

活動開始時期 2009年～

活動内容等 川や海などから少量の水を採取し、生物から放出された微量なDNAを解析する環境DNAは、生物を捕獲しないため、生物や生態系に負荷をかけず、短時間で調査可能な最新の調査手法である。この環境DNAをいち早く神戸に導入し、市内希少種の新たな生息地を発見するなど成果も上がりつつある。今後、調査継続することで、生物の分布調査だけでなく、水産資源の管理や、ヒト・動物へ感染経路の分析による感染症予防など、幅広い分野への活用による社会問題の解決として期待される。これらの先進的な活動はSDGsの達成による持続可能な都市の実現に大いに期待される。

